

教育同窓会 会報

- ・ 教育学部
- ・ 人間社会学域
学校教育学類
- ・ 大学院教職実践研究科
- ・ 養護教諭特別別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第 12 号 2022.3.22



「教職大学院における 新しい教員養成と研修」

大学院教職実践研究科長
大谷 実

大学院における教員養成と研修の新しい形態として、旧来の修士課程の教育学研究科を廃止し、専門職課程の教職大学院への改組が全国的に進められました。金沢本学もかつては教育学・特別支援教育学・教科教育学等を専門とする12の専攻を有した時期がありましたが、現在は教職実践高度化専攻の1専攻・2コース制をとっております。

教職実践研究科は「学習デザインコース」と「学校マネジメントコース」の2コースを設けています。どちらも、学校教育に関する高度の学識及び実践力・応用力を備え、特に子どもたちの主体的・能動的な学習をデザインし、支援する力において優れた教員(新採教員や若手・中堅教員)、並びにそのような教員から組織される学校において、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校の管理運営において指導的役割を果たし得る中核的教員を養成することを目的としています。

「学習デザインコース」は、学士課程からの進学者5名と現職教員5名、「学校マネジメントコース」は現職教員5名からなり、現職教員は石川県教育委員会から推薦・派遣いただいております。

教育課程に関しては、学校での実践を通して学ぶ「学校実習科目」を中心に据え、「共通科目」(教育課程の編成・実施、教科等の実践的指導法、生徒指導・教育相談、学級経営・学校経営、学校教育と教員の在り方の5領域に関する科目)、各コース

独自の専門性を追求した「コース科目」がこの基礎・基盤となり、「総合科目」(「専門研究」及び「実践カンファレンス」)がこれらを繋いでより潤滑・着実な理論と実践の往還を実現するよう編成しております。

教育方法に関しては、すべての授業を研究者教員(8名)と管理職経験者や附属学校長等の実務家教員(7名)の専任教員でチームを組み、学生が主体的・協働的に学習参加・構築することを前提とした事例中心の演習・ワークショップ、もしくは講義演習方式で実施しています。また、授業では「省察シート」を、実習では「web実習ノート」を活用し、教員は一人一人の学生の履修状況、演習・実習時の参加状況を捉えて情報を共有し、きめ細かな指導を行っています。また、専任教員に加え、学校教育学類から13名、法学研究科から3名の協力教員の支援のもとで、総合大学の特性を生かした深い学びを提供しております。

2年間の学修の1年次では、共通科目及びコース科目で専門的な理論と実践を学修しつつ総合科目の専門研究を通して各自の研究課題を明確にし、全校種を有する附属学校園での学校実習に取り組み、そこで見出した課題について総合科目の実践カンファレンスで省察・検証を行い各自の課題を明確にします。2年次は、石川県教育委員会から提供された連携協力校(現職教員は勤務校)での通年の学校実習においてその課題の解決に取り組み、総合科目の専門研究と実践カンファレンスを通して理論と実践の往還を強化し、高度な実践的指導力・組織運営力を育成しています。

本研究科では「角間の窓」というニューズレターを毎月作成し金沢大学のwebページで公開しておりますので、会員の皆様には、本研究科の特色ある具体的な取り組みの一端を是非ご覧下さい。

シリーズ 大学を訪ねて⑧

金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属小学校
附属小学校長 盛一 純平



「多様性の活用力育成をめざして」

令和2年6月、コロナ長期休業が明け学校が再開しました。「学校に来てみんなとする普通のこと全部楽しい」とはじける笑顔で話す子の言葉が忘れられません。人はかかわりを求めている、人とふれあうこと、人の中で生きていくことに喜びを感じ、そこに主体的に成長しようとする気持ちが生まれてくる。「人は人の中でこそ成長する」ことが今も未来にも普遍的であろうと改めて思いました。

本校では「共に生きる力を育む」を教育目標とし、「多様性の活用力の育成」を教育方針にSociety 5.0時代を豊かに生きる人間愛ある子の育成をめざしています。また令和2年から「汎用的コミュニケーション力の育成」の研究を行っています。研究成果は研究プラットフォームで発信し、全国の教員の知見をあつめながら進めています。コロナ禍においてこそ人との関わりを基に多様性をテーマにした取り組みがさらに価値のあるものになっているのではないかと思います。令和3年からは、教育に対する今日的課題に取り組むための先導的モデルを構築しながらさらなる多様性の活用力の育成のため以下のような学校改革にも取り組んでいます。

1 全学年学級定員1学級35人以下に(R4)

公立学校が全学年学級定員35人に学年移行することに伴い、現行普通学級1～4年生35人、5、6年生39人を、学年進行で全学年学級定員35人以下(1～4年生30人、5～6年生32人)に移行します。学級人数が減ることにより、一人一人により関わりよりきめ細かな教育を行うことができます。

2 これからの複式教育 3、4年生の複式学級を1学級に(R5)

複式学級ではGIGAスクール構想の1人1台の端末、ICT活用による遠隔授業や個別最適化学習の研究も進み従来の複式教育の形態をとらない新しい複式教育のあり方を研究していきます。現在2学級24名の複式学級の1学級を廃止し12名とします。他校の複式学級と、授業をオンライン交流し課題を共有しながらより効果のある複式教育のあり方の研究を進めます。どのような環境のもとでも質の高い教育がうけられる新しい教育方法構築をめざします。あわせて先進的なICTを活用した個別最適化した学びを追求していきます。

3 日本語適応指導教室の設置＝さくら(R4)

本県でも日本語指導が必要な外国人児童が年々

増加しています。来日浅い外国人児童は日本語や日本の習慣、教育に適応できないため、学習ができないばかりでなく、新しい環境から心身の状態が悪くなる児童も増えています。またコミュニケーションがとれずトラブルをおこしたりすることも多く問題となっています。今後の国際化からこのような問題を抱える学校が増加すると考えられます。そのため「さくら」では来日当初の児童に、通常学級において日本語で各教科等の学習活動に参加できる能力の育成を目標にして、主に日本語初期指導、日本語能力向上に特化した指導や日本の学びや習慣等の教育を重点的に行い、その後普通学級へ編入させます。日本語教育が必要な外国人児童に対し重点的に指導を行うことにより、日本の学びにも早く適応し学習ができるとともに、児童の心身の安定にもつながると考えています。

4 通級指導教室の設置＝かしわ(R4)

個別の教育ニーズのある児童が増加傾向にあります。それらの子に対し通級教室を設置し、個に応じて自立活動を促す支援を行ったり、情緒の安定をはかるリソースルームの役割を担ったりさせ学校全体で支援するインクルーシブ教育システムの構築をめざします。個別の教育ニーズのある児童に対し、教室で共に学べるようにするための多様な学びの場のあり方を研究していきます。

5 異学年グループ授業＝ハーモニータイム(R3)

1年生から6年生までが混ざったグループをつくり、授業を行います。授業は他学年と対話しながら進められ、学年の違いによる多様な意見、考えを取り入れながら課題解決をしていきます。

これらの学校改革を推進していくことにより自分と違った立場の意見、考えに触れる機会が多くなります。そこから多様性を肌で感じ、多様性を活用することの価値を学び、それを活用する力が養われていこうと考えています。

そしてその力が子どもたちにとって必ずや未来社会を共に生きる力につながると期待しています。



学校教育学類 特別支援教育専修の紹介

私たち 特別支援教育専修の4年生です

学校教育学類特別支援教育専修は、将来特別支援学校や特別支援学級の先生になりたい人だけでなく、障害のある子どもや支援を必要としている子どもたちにちゃんとかわられる小学校の先生になりたい人が、5人の特別支援教育を専門とする先生のもとで学んでいます。肢体不自由や重度障害を専門とする吉川先生、聴覚障害や手話を専門とする武居先生、言語障害や吃音を専門とする小林先生、発達障害や自閉症を専門とする吉村先生、知的障害や発達障害を専門とする田部先生の5人です。かつては、教育学部障害児教育教員養成課程と呼ばれ、40人以上の学生がいたと聞いていますが、今は推薦で入学した人以外は、学校教育学類に一括で入学した後に各専修に分かれるため、特別支援教育専修の学生は、各学年5人から10人程度で、アットホームな専修です。授業も一方的な講義ではなく、先生方とやり取りをしながら学習できる恵まれた環境です。私たち4年生は、例年になく人数が多く、特別支援教育専修は12人います。

年によって違いますが、私たち4年生は他県出身の学生が多く、県内出身者は今年は少ないです。また特別支援教育専修の多くの学生が教員になることを希望しており、県内、県外の教員採用試験を受け、4月から教壇に立つこととなります。不安は大きいですが、昨年まで大学にいた先輩が、

今年いろいろな学校で子どもたちを前に立派に授業をしている姿を見て、私たちも4月から頑張ろうと思っています。今は、4年間の学修の総まとめとして卒論に取り組んでいます。卒論のテーマは様々で、取り上げる障害種も様々、研究をさせていただくフィールドも学校や家庭など様々です。もうすぐ卒論発表会があり、これまでの研究成果を発表する予定です。

3年次は附属小学校、4年次は附属特別支援学校か県立の特別支援学校やろう学校で教育実習を行います。4年時の教育実習では、特別支援教育専修や障害児教育教員養成課程の先輩方が教壇に立たれており、いろいろご指導いただきました。

4月からどの学校に配属になり、何年生を持つことになるか不安も大きいですが、これまで学んだことを活かして、これまでの先輩方の背中を追いかけたいと思います。



令和3年度 教育同窓会代議員会開催

今年度の代議員会は、コロナ禍における開催となるため、書面付議で行われました。

○書面付議期間 令和3年8月5日(木)～
8月20日(金)

○付議内容

- ・令和2年度活動報告
- ・令和2年度会計決算報告
- ・会計監査報告
- ・令和3年度役員案
- ・令和3年度活動計画案・予算案

○代議員数 34名

○回答数 29名

○回答内容

- ・承認 29
- ・不承認 0
- ・回答なし 5

これまで空席だった事務局長に坂根功一氏(S55卒)が就き、会計・監事・幹事などに新しい方々に加わっていただきました。会員の皆様方には今後ともご協力の程お願いいたします。

令和3年度教育同窓会役員

| | |
|------|-----------------------|
| 会長 | 金浦 修郎(S43) |
| 副会長 | 飯田 一郎(S38) 澤野 等(S45) |
| | 高山 文雄(S39) |
| 会計 | 宮松まり子(S56) 櫻井ルリ子(S56) |
| 監事 | 東 実(S50) |
| 支部長 | 米林 利晃(学友支援室) |
| | 吉岡 憲一(小松 S46) |
| | 東 俊一(金沢 S44) |
| | 高澤 忠雄(金沢市 S40) |
| | 池島 憲雄(中能登 S43) |
| | 高山 文雄(奥能登 S39) |
| 事務局長 | 坂根 功一(S55) |
| 幹事 | 中村 雅恵(S54) 坂江 一郎(S57) |
| | 的場 茂樹(S60) 坂井 昇(H1) |
| | 辻谷 友紀(H13) 中島 康博(H17) |
| | 服部 浩司(H20) |
| 顧問 | 守屋 哲治(学校教育学類長) |
| | 大谷 実(教職実践研究科長) |
| | 山本 博男(金沢大学名誉教授 S47) |
| | 窪田 長世(元同窓会長 S38) |

☆☆☆ 学友支援室からのお知らせ ☆☆☆

令和4年の第16回ホームカミングデイは、10月29日(土)に開催！
卒業生・修了生の皆様、久しぶりに青春の学舎に寄りませんか！

昨年の第15回は、令和3年10月30日(土)、本学角間キャンパスにおいて、午前中はキャンパス見学会、午後は、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、十分な感染症対策を施した上での開催となり、歓迎式典には132名、懇親交流会には94名、キャンパス見学会には33名の卒業生及びそのご家族等にご出席いただき、盛況な1日になりました。

歓迎式典では、山崎 光悦学長による歓迎挨拶、山出 保金沢大学学友会会長の祝辞、和田 隆志理事・副学長による金沢大学の近況報告、日本人学生(2名)による留学体験報告、そして課外活動報告(硬式テニス部)が披露されました。

特別講演では、社会福祉法人佛子園理事長 雄谷 良成(おおや りょうせい)氏(昭和60年教育学部卒業)に、「ごちゃまぜ」と題し、お話いただきました。佛子園の取組により、様々な人が訪れるコミュニティから人と人のつながり(ごちゃまぜ)が生まれ、その「つながり」は性別や年齢、障がいの有無と関係なく、誰も排除しない社会を生み出していくこと、誰もが心地よいと感じられる環境や居場所を提供していくことが地域社会に求められていると述べられ、また、組織の中では、それぞれの部署を超えた連携により利用者への対応を共有し、すべての利用者が満足を得られるよう取り組んでいくことが重要であると述べられ、お話の内容は大学の人材育成や地域貢献にとっても大変重要であり、組織としても金沢大学の今後の目標とする姿と通ずるものがありました。

歓迎式典終了後には、金沢大学学友会 第11回役員総会が開催され、安宅 建樹(あたか たてき)新会長が選出されました。また、山崎 光悦学長より山出 保会長へ、長年にわたるご支援に対し、感謝状及び記念品目録が贈呈されました。

夕刻からの懇親交流会は、安宅 建樹学友会新会長の乾杯の発声で始まりました。会場では、本学卒業生の木管アンサンブル(ナチュール・クインテット)により、開始前と乾杯後に演奏をしていただき、懇親交流会はその素晴らしい響きに大いに盛り上がりました。

次回、第16回金沢大学ホームカミングデイは、令和4年10月29日(土)に開催します。次回までには、新型コロナウイルス感染症が収まることを願いつつ、同期生・サークル仲間の皆様におかれましては、校歌を歌いに是非とも懐かしい母校にお越しいただきますよう、お願い申し上げます。

○金沢大学学友支援室Webサイト(ホームカミングデイの情報も掲載)

http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html

○学友支援ニュース・レター(学友支援室Webサイト内にPDF版を掲載)

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

教育同窓会 会計決算報告(R2年度)

令和2年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告(R2.4.1~R3.4.1)

【収入】

| 項目 | 金額(円) | 備考 |
|-------|-----------|------------------------|
| 1 繰越金 | 1,915,458 | |
| 2 会費 | 1,517,865 | 新入学生終身会費(76名) 特別会費(3名) |
| 3 利子 | 37 | |
| 合計 | 3,433,360 | |

【支出】

| 項目 | 金額(円) | 備考 |
|---------|-----------|------------------------|
| 1 会議費 | 2,250 | |
| 2 通信費 | 13,682 | 住所変更連絡等料金後納郵便料 事務連絡費 |
| 3 事務用品費 | 3,288 | 印刷用紙 コピー代 など |
| 4 分担金 | 0 | |
| 5 印刷発送費 | 1,110,671 | 会報No.11印刷発送 |
| 6 慶祝費 | 147,000 | 卒業祝い図書カード(1,000円×147人) |
| 7 その他 | 9,000 | 会報執筆お礼(3,000円×3) |
| 合計 | 1,285,891 | |

収入総額 3,433,360 - 支出総額 1,285,891 = 2,147,469

【差引残高】 2,147,469円はR3年度事業に繰り越し。

編集後記

コロナ禍はまだ続きそうですが、そんな中でもできることを増やしていく努力が今年度は至る所で見られたようです。本号も無事発行することができ、ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

(中村)

新事務局長あいさつ

教育同窓会事務局長となりました坂根功一です。中学校教員養成課程(数学)、昭和55年卒業です。コロナ禍で、互いに顔を見ながらの同窓会の開催は難しいところですが、様々な方法で情報を発信し、つながりが持てることができればと思っています。願っていることも多々あるかと思いますが、会の円滑な運営にご協力くださるようよろしくお願い致します。

★同窓会情報をお寄せください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催情報を、同封の返信用はがきで事務局までご一報ください。情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載します。幹事様のお名前をご連絡ください。

また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学事務局 学友支援室
Tel 076-264-5081
gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp